

脊椎外科（指導医：坂本 武志、堤 良祐、中嶋 崇貴、姜 顯炅）

2023年度の脊椎手術の件数は、頸椎 59 件、胸腰椎 262 件（腫瘍含む）、総数 321 件です。

対象疾患については、手足のしびれ、歩行障害、お箸が使いにくいなどの手指巧緻運動障害を生じる頸椎症 性脊髄症、片側上肢の痛みやしびれを生じる頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症性神経根症、間欠破 行を呈する腰部 脊柱管狭窄症が主な疾患ですが、上位頸椎や成人脊柱変形（側弯や後弯）の低侵襲手術も積極的にを行っています。

近年の脊椎手術は側方経路腰椎椎体間固定術（XLIF, OLIF, LLIF：Lateral Lumbar Interbody Fusion）の発展により進歩しています。OLIF（LLIF）手術は、L2-L5 レベルにおいて大腰筋前方の解剖学的スペースからアプローチするテクニックであり、大腰筋に対してほとんど侵襲が無い低侵襲な手技であり、当科では日本導入当初から患者さんに提供しています。

また、2021 年には更新された最新ナビゲーションシステムの活用を含め、より安全かつ円滑に低侵襲手術を行える環境になっています。

術後は、頸椎、腰椎ともに翌日にドレーンを抜去し、離床を許可しています。除圧術のみの症例では術後 7- 12 日で、固定術を併用した症例ではほとんどの患者さんが 2 週間以内で退院が可能となっています。もちろん麻痺の程度によっては、しばらくの間リハビリを行うこともありますが、大半の患者さんは転院ではなく自宅に帰っておられます。